

彩菜栽

2018年
9月

美味しくくて形の良い ダイコンづくりのポイント



大根は強大な根を速いスピードで
地中に形成するので、根形や品質が
土壌や肥料栄養の影響を受けやすい
性質を持っています。

そのため、次のポイントを押さえ
て育てることが大切です。

(1) 畑の準備と元肥の施し方

少なくとも種まきの20日以上前に
畑全体に石灰をまき、石ころや木切
れなどを取り除きながら30cm以上の
深さによく耕します。吸肥力は強い

方なので、前作に堆肥が施してあれば、
特に堆肥を与える必要はありません。
痩せ地で有機物不足が心配なら、
完熟堆肥と有機配合飼料をよく混ぜ
合わせ、事前に発酵させた物を、株と
株の間に当たる所に施し、根の伸び
を妨げないようにしま
す。

(2) まきどきを守る

早まきし過ぎると病
害虫の被害を受けやす
く、遅過ぎると根の肥
大不足になります。温
暖な平たん地のまきど
きは9月上旬から下旬
です。品種による違い
もあるのです。種子を求

める時に適期を確かめ、適期範囲の
やや遅めにまき管理を入念にして成
長を促進するように心掛けましょう。

引き時から半月ごとに3回ほど与え、
土を掛けて畝を作ります。肥料は化成
肥料と油かすに加え、米ぬかを混ぜる
と食味がよくなります。

(3) 間引きと追肥、入念な土寄せ

種子は1カ所5〜6粒を、瓶など
で円状に付けた溝にまきます。発芽
して本葉1枚の頃から8〜9枚の頃
にかけて3回ほど間引き1本立てに
します。間引く際には、子葉がハート
の形で素直に開いている株を残すよ
うにします。異常に育ちの早い株や、
形が非対称の株は、岐根や短形にな
る場合があるので残さないように注
意しましょう。

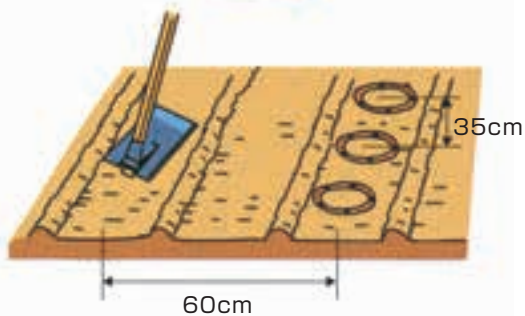
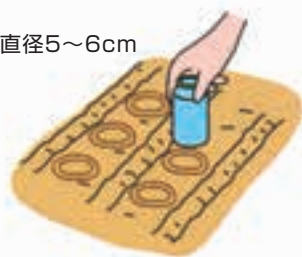
(4) 害虫の予防、駆除を怠りなく
アブラナ科野菜の常として各種の
害虫(シンクイムシ、コナガ、アブラ
ムシ、ハスモンヨトウなど)の被害が
出やすいので、早めに発見、適応農薬
を散布して防ぎます。

間引いたら株の周りに土を寄せ、
風で振り回されないように保護し立
ち上がらせます。追肥は第2回の間

農薬に頼らない防除法としてはソ
ルゴーを何列か置きに作り障壁にす
ること、防虫ネットやべた掛け資材の
被覆などがあります。被覆は種まき後
3週間以内ぐらいにしないと生育に
支障を来すので、除覆する時期に注意
して下さい。

種まきは円形の印を付けて

直径5〜6cm



大型品種は株間を大きく

間引きの時は
子葉の形の良いものを残す



追肥
第1回は株の周囲に
2回目以降は裂の片側づつに

